

## 3年生卒業、旅立ち

毎年、1月は3年生が卒業する時期となります。それは彼らが自分自身の心を振り返る時期でもあり、1.2年生にメッセージを残していつかくれる時期でもあります。今年の3年生は3名。3名とも2年生からGEに参加し、今までの経験したことのないことや新しい自分の可能性を見つけました。そして、その2年間で感じたことをひとりひとりが思うように、まとめました。その内容を今回はご紹介します。そして、3年生は最後の授業で1.2年生に感じてきた思いを伝えました。

## 2024年度・3年生のメッセージ

### 【どうしてグレアを選んだか?】

2年生の4月に、新しいことに挑戦したいと思って物理室に行きました。グレートアースの説明を聞くと、だんだん不安になってきて、やっぱりやめようとして物理室から出て行きました。そんな時に、1年生の時に取っていたアートと情報発信の三木さんから「稲葉くんなら大丈夫だよ」と背中を押してもらいました。僕は、ここでやめたら中学生の時の挑戦したくても勇気がなくて一歩を踏み出せず逃げていた自分と変わらないと感じて、挑戦してみることにしました。

### 【グレートアースでできるようになったこと】

僕がグレートアースでできるようになったことで、自分が変わったなと思うのは、一歩を踏み出す勇気を持ったことです。グレートアースに入る時もそうだし、2年生の時の馬背岩での飛び込みで、飛び込むために岩の淵に立ったら結構高くて怖かったけれど、グレートアースのみんなが「頑張れ」と応援してくれました、その時も逃げたくないと感じたので、勇気を出して飛び込んだら水が気持ちよかったです。

グレートアースで一歩を踏み出す勇気を持った自分に変わったことで、グレートアースの他にも3年生になった僕は、色々なことに挑戦することができました。まあ、いざ一歩を踏み出そうとすると、考え込んで体調を悪くするんですけどね。

### 【この先どう生きていきたいか、大切にしたいこと】

僕は、人との繋がりを大切に生きていきたいです。理由は、グレートアースで好きなことに一生懸命な人たちに会って、話を聞くことで相手のことを知れて心が通じ合えることができると僕は思いました。いろんな人と出会う他にも、僕がグレートアースに入る時も川に飛び込む時も、人に背中を押してもらえたことでできたと思っています。僕は、人に助けられてばかりです。もし困っている人がいたら、迷わず手を差し伸べようと思いました。こういう人との繋がりを大切にしたいと、このまとめをしていて改めて感じました。残りの学校生活では、お世話になった方々に感謝し、ありがとうを伝えようと思います。

補足したい! : 自分は夢とか理想を持つことは良いことだと思う。そしてその思い、自分の夢みたいなものは「人を笑顔にしたい」ということ。あとは、最近の世の中はクソだなんて思うことがある。南アルプス・リニア新幹線訴訟の原告になれない人(大井川に関わる人以外は原告として認めない)の話を聞いてもそう思った。他にも知ればしるほど、社会には理不尽だなんて思うことがある。(でもあきらめたくない)(なんでも鶏呑みにしないで)おかしいと思える人間になりたい。

## 3年:白田恵琉

黄柳野に入って2年半たって、成長したこともあればなんなら退化したんじゃないかってこともあって成長出来たことの大半のターニングポイントはグレートアースにありました。

2年生のときに動くことは苦手だけど楽しそうだから頑張りたいって想いで選択しました。1年生の頃までは外で思いっきり動いたり遊んだりすることもなく部屋で動画を見ていたり折り紙を折っていたりのようなインドアなことしかやってこなかったんです。

初めて乳岩に行った時に山に登ることも慣れていなくて体力もないからすごく大変だったけど、上まで登ってクライミングをしたことをきっかけに挑戦したり動くことも少しだけ好きになりました。一般GEの豊川の源流探しに参加してから挑戦することの楽しさだったり自然で遊ぶことの楽しさを知ってどんどんグレートアースのトリコになっていきました。自分の体のことも考えて参加出来なかったこともあったけどほんとに2年生のときはなんでも挑戦するようになってました。

2年生の頃は3年生になっても沢山挑戦して、たくさん遊ぼうって考えてたから3年生になってもグレアでもっとたくさんをやりたかって思って選択しました。しかし、進路のことだったり人間関係だったりでぐちゃぐちゃボロボロになって今年度は思うように動けず参加出来ないことも多かったから今思えばすごく悔しいなって思います。

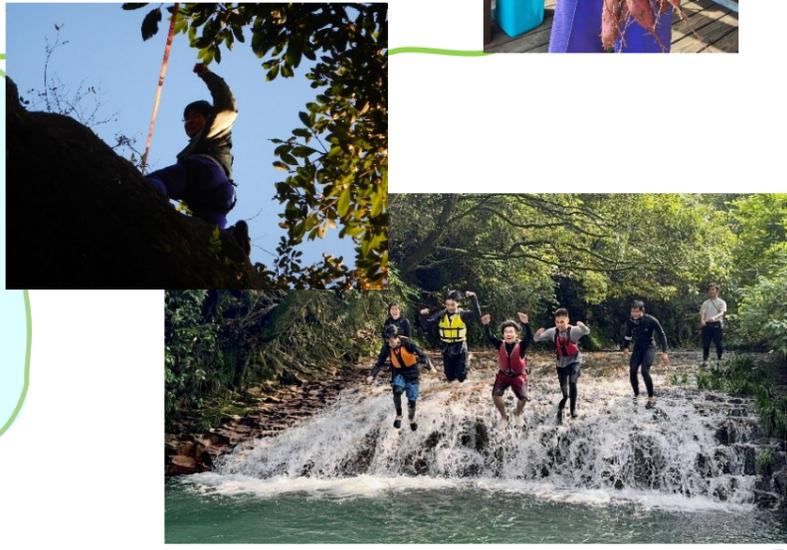
そして、挑戦することと同じくらい大切にしているというか気づかないところで大事にしていたことがありました。

それは平和について考えたり戦争について考えたり、自然破壊について考えたりすることです。沖縄戦争の話だったり原爆の話、南アルプスのリニアの話だったり、人から話を聞いて知ること多いけど、その先は自分たちも考えることができるしどう行動していくのかがいいのかを色々な話から連想するようになりました。

全てのことを自分から知ることは難しいけど「知る」ということは自分だけじゃなく周りの人からでもいいし、情報として知るだけじゃなく、そこに住んでる人だったり住んでた人、経験した人がどう考えるのかも知ることの一部だと思います。昔だったら知ること深くてこなかったし考えることもしてこなかったです。

特にグレアで扱った話は「授業」として知ることはあっても当事者の気持ちになったりこれからを担う立場の人間として考える、知ることはなかったです。

知って考える、もうちょっと先に進んで相手の気持ちを考える。自分が今できることを探して少しでも頭の片隅に置いてくだけでも救われる人はいると思います。そして今、楽しく過ごせてる人は来年も沢山挑戦できるとは限らないし何が起るかわからないからできる時に今! 沢山楽しんでほしいなって思います。



# 3年: 白井雄大

「きづき」

ただ飛び込むだけだと思っていた  
目の前にするとこわくてすくんじゃう  
でもとんでみたらいい気持ち  
ただ人の前にでるだけだと思ってた  
目の前にすると緊張で震えちゃう

ただ登だけだと思ってた  
クライミングって意外とたいへん  
でも登れるとうれしい  
ただ話すだけだと思ってた  
思いを伝えるって意外とたいへん  
でもつたわるとうれしい

ただの鳥だと思ってた  
どの鳥も飛び方、もよう、鳴き声、生き方  
全部違って美しい  
ただの人だと思ってた  
どの人も、考え方、みため、声、生き方  
全部違って美しい

ただの砂だと思ってた海の砂  
よく探してみると  
キラキラかがやく宝石がある  
ただいつもの日常だと思ってた世界  
よく探してみると  
キラキラ大切なものが見えてくる

ただ便利な物だと思ってた  
どれも地球の恵みで限りがある  
今あることに感謝して大事につかおう

ただ助けられてるだけだと思ってた  
でも実は互いに助けあってて  
一生消えない大事なつながり

ただ悩んでた。何が正しいか  
でも人の数だけ正解があって  
きまった答えなんてなかった

ただ生きてるだけだと思ってた  
今までやってきたことに無駄なんてなくて  
それのつみかさねで自分がいる

これからも挑戦していこう



## 3年生の思いを聞いて… 1. 2年生の思いは？

2年小野裕道：GEに入った年は同じでも人間としての差っていうか感想とか思ったこと1つ1つを聞いても自分の周りのことだけじゃなくて、「じゃあどうすれば良いのだろう」とか考えているのが凄いと思った。これからも3人ともホントに頑張ってもらいたいと思う。



2年名倉来瑠美：GEなどに参加できていなかった時、よくめぐは話していた。なんでも全力で取り組むGEが「自分の今のパワーだと大変な時もあるって、参加できないね」って話をしていた時もあったけど、今は「楽しかったね」って話せて良かった。できなくなって、いかに自分がGEが好きだったか気づいたこともあったからすごい共感した。

2年伊藤留光王：自分は年上が苦手で基本自分から話しかける事はなくて、でも稲作は自分から優しく喋りかけてくれて、白井君はすごい優しい雰囲気であんまり話さなかったけど、ために喋ってくれて、詩を作ってるのを見ると「よくこんな文章を考えられるな」って思って、3年生は超えられないなって思った。

2年谷川遼馬：何事も先生や世間の言うことが正しいとは限らない。なので自分が正しいと思う考えを持ちたいと思った。

1年尾瀬湊：人のことはわからないから、気持ちや感情を大事にして、色んな人の意見を聞いてみようと思った。やっぱり言葉にしないと気持ちは伝わらない。

1年宇野咲来：自分で色々なことを考えようと思った。

1年山口隼汰：一歩踏み出す勇気が最初はなくても、皆の助けで勇気がわいて、今では自分から一歩踏み出せるようになっていてすごいなと思った。誰に何を言われても、自分はこれで良いと自分の良いにちゃんと従っていてすごいと思った。

2年小澤蓮：頑張りたいけども頑張りきれない。そんなのは嫌だからぐるちゃんも、今を楽しんで生きてほしいなと思った。「当事者になって考える」は難しい。相手の気持ちになれなきてできないことだから、僕もできるように、そんな考えをもちたい。成長した、そんな話がすごい素敵だと思った。挑戦することは怖いし、僕はめっちゃ苦手だからすごいカッコいいと思った。自分の伝えたいことをしっかり言葉にして良かったです。



# 「未来へ羽ばたくグレートアース」in 学習活動報告会

1月18日(土)の学習活動報告会にて、GEでも学び、感じたことを発表しました。4月から命・自然・遊びを軸にした学びを行ってきたGE。そこでメンバーたちが感じたのは、「命の素晴らしさ・地球の偉大さ・そして未来」です。自然の中で遊んで、自分たちが「何が素敵だと思ったか」「何が幸せと感じたか」を語り、命が繋がっていくことを体感し「命の力強さ」を語り、人の営みと自然・命のやりとりを目の当たりし「これからの未来を創ってっていくのが誰か」と考え、当日の報告としました。

今年は特に各生徒が思いを語る場面が多く、そして何より「自分たちがどう生きていきたいか」を語る生徒が増えたように思います。自らの体験をもとに感じたことから、自らの生き方について考える。そして、報告という形で社会への投げかけを行う。感じたことから実行に繋がっていった瞬間です。

そして、最期は3年生の報告でした。彼らの報告はやったこと・感じたことだけでなく「人として大切なこと」を語ってくれていたと思います。全ての命が命を全うできる地球を願い、語ってくれていたと思います。

卒業間近の3年生の語りで報告を終えました。この報告会を機に高校生たちは自らの思いを振り返り、大切なことを確認したように思います。「これから作るのは私たち！」彼らの締め言葉です。その言葉通り、力強く、未来に羽ばたいてほしいです。



主な発表は、1,2年生が3つのテーマに分かれて行い、最後に3年生が語って行いました。1,2年生は1年間の活動の中で感じたこと・大切だと感じたこと、そして自分たちがどう生きたいか…ということが軸におかれたもので、各グループ仲間と話し合い、内容を吟味していました。以下がその内容の一部です。

## テーマ① あなたは今、幸せですか？

人間にとっての幸せは？  
 生き物にとっての幸せは？

- 人間の語り：お風呂に入れること、服を洗濯できること、トイレを流れること
- イヌワシ語り：自然豊かで自由に暮らせる。狩り場があって、おなかいっぱい食べられる、人間がいない…



僕たちは、ご飯を食べている時に幸せを感じる！自分たちで獲ったり、育てたりすることでご飯のありがたみを心と体で実感します。仲間と一緒にご飯を食べることで、より幸せを感じることができます。

私たちは、遊んだり、美しいものを見ることが幸せー！沢登り、自然を楽しむことが全て詰まった沢登り！みんなで水をかけあって、岩肌をすべって、大自然を楽しんだ！水の中はとても気持ち良かった。

私たちは、こんなことが幸せだけど、  
 イヌワシたち、動物や自然の幸せってなんだろう？

## お前らは、どう思う？

## テーマ② 活動で感じた思いを聞いて！



地球の恵みで、  
 ジャガイモを作ってみた！

### あなたたちの知らないことを知ってもらいます！

僕たちは「ジャガリスト」です！！人間の本来の力を自然の力を今から教えます。地球に優しい人のフンの使い方を知っていますか？実はとてもつもなく強い肥料になるんです！！僕たちは実際に試してみました。フンの有無で結果が変わるのはもちろん、肥料を使わずに美味しいジャガイモができたことにビックリしました。皆さんも是非試してみてください。

俺たちは今からクライミングで思ったことを言っていくぜ！

自分に吹く気持ちいい風、普段と違って見える周りの景色、そして指がかかってホッとする。

僕は最初、登る岩を見て、最初からこんな岩登るの！？って驚いたけど、登りきることができて、自分でも登れるんだと自信がつかました。

山を登って、キノコを探すと危険な生き物に出会うこともあるけど、危険をおかしながら見つけたキノコはたとえ毒でも嬉しい

キノコは見た目が変。例えば丸だったり、ベトベト・ツルツル・細長いとか色々なキノコがあるから判別は楽しいと思う。

新たな視点、自分の可能性の発見

自然の中のおもしろ発見

## テーマ③ 今と未来(社会をみつめる)

僕たちは南アルプスについて話します。皆さんリニア新幹線はご存じでしょうか？東京から大阪までを結ぶ、磁気で動く新幹線です。そのリニアがルートの途中で長野・山梨・静岡にそびえる南アルプスの地下にトンネルを通す予定です。僕は埼玉県に住んでいます。ニュースで「工事が遅延している」ということしか聞いたことがありませんでした。しかし、現地の声を聞くと、トンネル地盤沈下、水不足、トラックの騒音問題など様々な問題が浮上していました。僕は新幹線に興味があり、JRがリニアを作りたい気持ち、そして現地の様々な声、どちらも理解できるからこそ、難しい問題だと思いました。

しかし、僕は前から思うことがあります。それは、世界は犠牲の上で成り立っているということです。アルプスの自然を多少なりとも壊すことで、私たちが暮らしている部分もあり、逆に壊さないと暮らせないのかもしれない。何事も不要、必要ではなく、バランスを取れば良いのですが…だからこそ難しいと思いました。

### 沖縄戦について

私が沖縄戦の話を聞いて思ったことは、「何でも悪いことをしていない、こんなたくさんの人たちが捨て石にされなきゃいけないのか」ということでした。このようなことを知って、私は悲しくなって、戦争とか起こらず、性別とか、花とか、熊とか、植物、動物、関係なく皆、心から笑って過ごせる未来になると良いなと思いました。

### リニア新幹線と南アルプスについて

僕が南アルプスに実際に行ってみて思ったことは、たくさんの生き物が住んでいる場所だと思った。少し歩くだけで何か食べたもの、何かか用を足した「跡」が残っていた。どこもそうだけど、南アルプスにはたくさんの生き物が住んでいる。その大切な自然を人間が今、汚している。だから僕たちは守りたい。同じ「命」をもった生き物だから。



これからをつくるのは、俺たちだ！

# 「伊豆大島・伊豆半島 火山を体感する旅」2024.12.15-17

今回の旅のテーマは「火山」。普段見ている山や海は実は不動のものではありません。今なお動き、変化しています。それは地球が生きている証拠。その証拠をもろに感じられるひとつが火山活動です。伊豆半島・伊豆大島にはその痕跡と今なお活動している胎動を感じられる世界が多数あります。自らの五感で火山を感じる！それが今回の最大の目的です。初日、伊豆半島でマグマが固まった海岸線でクライミングです。柱状に固まった岩は不思議な景観を作り、そこにできた割れ目を利用して登るクライミングです。高校生たちはいつもと違う岩と雰囲気圧に圧倒されながらも楽しめます。そこは強風と荒波と岩の世界。2日目は伊豆大島に移動。上陸した時からその異様さに気づきます。植物の感じが違う。岩の感じが違う。この島…何か違うと。登山が始まればその異様な光景に更にびっくり。数年前まで活動が活発だった山々には木々がなく、風を防ぐものはありません。強風だったこの日はその風をもろに受け、時折恐怖心が芽生えるくらいです。「飛ばされる…」と。足元は見たことのない溶岩の痕や砂。触ればゴツゴツイガイガで痛い！そして、登った先には大きな大きな穴が登場！そう、火山が爆発した痕の「火口」です。飲み込まれそうなその大きさと深さに感嘆する一同。

その広大さに怯む気持ちもありましたが、それと同時に「あの中はいったいどうなっているのだろう…入ってみたい」とそそられる気持ちも。周囲には奇岩とびっくりするほどの軽い石たち（気泡だらけで軽い）。とにかく自分たちを包む全てが火山であり、自分たちが今まで想像していた火山を遥かに超える世界がそこにはあったのです。最後には裏砂漠という場所に到着。全て溶岩が崩れた砂地のような状態になり、更に溶岩の黒色。まさに黒砂漠。山の上まで真っ黒で何も無い世界。その広大さや不思議さに火山の世界に飲み込まれそうでした。圧倒的な火山の世界を感じた3日間。私たちの五感全てが火山、そして生きている地球を感じていたように思います。

**視**→圧倒的な火山の素晴らしい世界。  
**触**→痛い！溶岩はゴツゴツ、イガイガで握ると痛い！風、強すぎでした。お肌は冷え冷え、カピカピに。  
**臭**→火山の山には火山ガス！？水蒸気？が今も出ていました。でも、、臭いはあんまり感じなかったな。  
**聴**→強風の音、3日間ずっと。荒波の音、3日間ずっと。時折「キョン」の声。  
**食**→海の幸、最高でした。  
**顔**→しょっぱくなった（強風のため潮が飛んできた）この世界を目の前にした生徒たちは「火山と友だち

になった感じもした」という感想も。そして同時に、深淵なる火口、広大な黒砂漠、恐怖も覚える風、何も生えない山…その想像を超える世界に人間のちっぽけさも感じたようです。自然の力は人がコントロールするものではない。人もまた自然の一部であり、それを無理やり変える行為はおこがましい…そんなことを感じる3日間でもあったのではないのでしょうか。

いざ、伊豆大島へ！



黒い砂漠(黒の噴石)



強風の山頂

1年尾瀬湊：クライミングの場所では、前に練習したところとは全然違って、登り方が難しかったです。頑張って挑戦したけど、うまくいなくて、また行く機会があれば、もっと上手に登れるようになりたいと思いました。丸いポットホールは、最初どんなものかわからず、「どんな感じなんだろう」と興味津々でした。実際に見てみると思った以上に大きく、きれいな丸い形で驚きました。みんなが触りに行ったり、大きな波が来たりしていて、とても楽しそうでした。夜は月がとても綺麗で、海と一緒に眺められて印象的でした。2日目は登山でした。普段の登山は森の中を階段で歩くイメージでしたが、今回は全く違う雰囲気でした。坂道ばかりで階段はなく、風も強くて、全体的に新鮮な体験でした。

吸い込まれそうな噴火口



自然の豊かさ

厳しさの両面を知る



奇岩たくさん島



まん丸ポットホール

2年小野裕道：伊豆大島はやっぱり火山と友達になる前に、風と友達になるっていうか、風に嫌われたり、風と友達になったりみたいな、クライミングの怖さとは違った、自然の怖さをすごい感じました。四国で海の怖さを感じるっていうより、ちゃんと自然の怖さを感じました。ほんとに、ずっと荷物（飛ばないか）大丈夫かな。大丈夫かな。みたいになってたら、みんなは「大丈夫じゃない」みたいになって、移動してるときも、テントバキンみたいな音がして、「うわあ」みたいな感じで、でも結局最後は安心して眠れるところにたどり着いて…あと登山は規模が違うっていうか、最初はちょっと舗装されてる道で「こんな簡単だな」と思ってたけど、なん河口周りに入ったところからは風も強いし、スコリアとかも見ながら、必死に歩いてたら、「うわ、これ軽くな」「いや、こっちも軽くな」みたいになって、結局最後はどれが軽いかかわかんなくなっちゃって…それで、調べたら、やっぱスコリアは浮かなくて、軽石は浮くて、結構この3日間で全部回りきった感じはしたけど、まだ自分の考えとか、学んだ中では思いもしないようなことがいっぱい残ってて、全部が全部、今後の生活に生きるっていうか、今後に生きるような学びができたかなって思いました。



編集後記(さ)

あつという間に三年生の卒業です。今年度の三人はアクティブ系かというところでもない三人でした。しかし、彼らの素敵なところは、その心。人の心に近づこうとする心。全ての命に思いを寄せる心。そして未来を見据える心です。今年度ほど、GEの中で社会と向き合い、自らの生き方を考えた年はありません。それは三年生三人の思いが常に社会と向き合っていたからだと思います。沖縄戦、南アルプス・リニア新幹線工事、災害、懸命に生きる人たちの出会い：そのターニングポイントで必ず彼ら三人がハットする思いをGEメンバーに投げかけてくれました。そして、一、二年生の思いも深まっていく。アクティブでは無いが故に考えることも多かった三人。だからこそ、勇気を出して挑戦してきたことの重みや意味が、その都度心の中で反芻され、深まっていたのかもしれない。

彼らの心にはいつしか願いが生まれていました。「誰もが笑顔で過ごせる未来になってほしい」それは人だけに限らず全ての命に対して思うことでした。そして、その願いのために自らも一歩踏み出す勇気を持つと決心していました。

彼らは未来に旅立っています。そして、その未来は自分自身の願いと行動で作っていくのです。GEの学びの中で、彼らは地球の可能性に触れ、そしてその一部である自分自身の可能性に気づいたはずだと。可能性は無限大だと。